

⑯ 日本国特許庁 (JP) ⑰ 実用新案出願公告
⑱ 実用新案公報 (Y2) 昭55-8337

⑲ Int.CI.
H 01 Q 21/30
1/10

識別記号 廷内整理番号
7530-5J
7125-5J

⑳ ㉑ 公告 昭和55年(1980)2月25日

(全2頁)

1

2

㉒ ロツドアンテナ

㉓ 実願 昭50-163711
㉔ 出願 昭50(1975)12月4日
公開 昭52-76233
㉕ 昭52(1977)6月7日
㉖ 考案者 神保佳玄
群馬県多野郡吉井町神保805
㉗ 出願人 株式会社横尾製作所
東京都北区庵野川7の5の11
㉘ 代理人 弁理士 小橋信淳 外1名

㉙ 実用新案登録請求の範囲

伸縮多段管と、この伸縮多段管の最外側管体の外周に絶縁部を介して同軸に設けられた円筒管とからなり、上記伸縮多段管を低い周波数帯用のアンテナとし、上記円筒管を高い周波数帯用のアンテナとすることを特徴とするロツドアンテナ。

考案の詳細な説明

この考案は、VHFとUHFなど複数バンドの送受信を行なう無線機に適したロツドアンテナに関するものである。

近年、テレビセットにおいてはUHFとVHFの両方を受信できるものが普及し、ラジオにおいてもUHFは音質が良いとのことで両方の周波数帯を受信できるものが普及している。また、送受信を複数バンドで行ないうる移動用無線機なども知られている。従つて、使用するバンドに応じてアンテナが切換わるもののが望まれるが、無線機のスイッチの切換えにより個別に設けたアンテナを切換えるのみでは、専用のアンテナをそれぞれ独立に設ける必要があり、アンテナの取付スペース、価格、取付工作の複雑化に問題があつた。

そこで、この考案は見かけ上1本のアンテナでありながら複数バンドの電波を別個に取扱えるようにして上記問題点を解決したロツドアンテナを提供するものである。

図は、この考案によるロツドアンテナの一実施例を示す側断面図である。図において、アンテナ本体は管径の異なる複数の管体を同軸的に配置して伸縮自在とされた伸縮多段管1と、この伸縮多段管1の最外側管体1Aの外周に設けられた絶縁チューブ2と、この絶縁チューブ2の外周に設けられた円筒管3とを主たる構成とされ、伸縮多段管1の基底部は周回動自在に保持された回転玉4に固定され、円筒管3は絶縁ブツシユ5を介して回転玉4に固定されている。そして、回転玉4は玉受6、受皿7、スプリング8、一端にネジ部9を有するネジ固定軸10および押しネジ11で玉受6内に押圧保持され、円筒管3はその基端部から回転玉4、玉受6、ネジ固定軸10に設けられた孔を通してリード線12が引出されている。なお、回転玉4、ネジ固定軸10および玉受6もしくは受皿7、スプリング8は導電性材料で形成されている。

従つて、この考案によれば、伸縮多段管1と円筒管3とは絶縁チューブ2、絶縁ブツシユ5の介在により電磁気的に絶縁され、伸縮多段管1はネジ固定軸10まで電気的に接続され、円筒管3はリード線12で引出され、見かけ上1本のアンテナでありながら互いに異なるバンドの専用アンテナを持つ効果がある。例えば、伸縮多段管1をVHF用アンテナとし、円筒管3をUHF用アンテナとすることができます。この場合、円筒管3の長さは200~250mm程度で良い。また、専用のアンテナを別個に設ける従来のアンテナに比べてアンテナの取付スペースは1本のアンテナと同等になるし、その取付も簡単になり外観上および操作性も良くなる。

図面の簡単な説明

図面は、この考案によるロツドアンテナの一実施例を示す側断面図である。

1……伸縮多段管、1A……最外側管体、2…
…絶縁チューブ、3……円筒管、4……回転玉、

3

4

5……絶縁ブツシユ、6……玉受、7……受皿、
 8……スプリング、9……ネジ部、10……ネジ
 固定軸、11……押しネジ、12……リード線。

